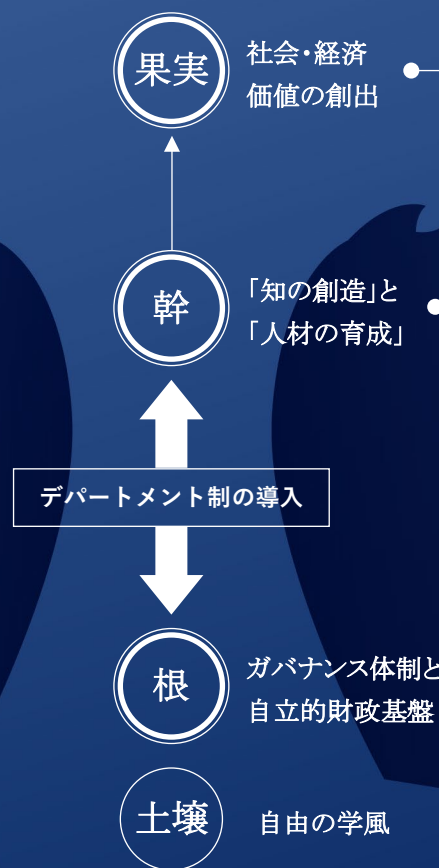




自由な研究環境のもとで、
社会を変革する価値と
グローバルに活躍する高度人材を
生み出し続け、

世界から多様な 研究人材が集う 知の拠点へ



成長戦略

▶ P. 19

- 学術研究成果を社会・経済価値につなげる体制・仕組みの整備
- 創出した価値を学術研究への再投資、独自基金の拡大へと循環させる仕組みづくり
- ファンドレイジング、グローバルスタートアップ創出等の相乗効果による外部資金獲得増



研究改革

▶ P. 5

- 独創的かつ卓越した学術研究成果を生み出し続けられる組織・支援体制の構築
- 研究人材・研究時間・研究環境・多様性に配慮した戦略的な研究資源アロケーションの実現



教育改革

▶ P. 15

- デパートメントの研究力に裏付けられた高度人材の育成システムの整備
- アカデミアのみならず多様な分野での活躍を促すキャリアパスの創出



経営改革

▶ P. 20

- 総長・プロボスト・CFOによる戦略的意思決定システムの整備
- 「教員組織/事務組織」から「研究組織/教育組織/支援組織」への再構築

Mission（京都大学の基本理念）

創立以来築いてきた
自由の学風を継承し、発展させつつ、
多角的な課題の解決に挑戦し、
地球社会の調和ある共存に貢献する

Vision（京都大学の全学ビジョン）

- 自由で独創的な研究による知の創生によって、社会の多角的な課題解決と社会を変革するイノベーションの創出に貢献
- 世界のアカデミアを牽引する優れた研究者とグローバルに活躍する高度な専門能力を有する人材を養成・輩出
- 国際社会に開かれた総合大学として、世界から多様な人材が集う国際的な知の拠点（ハブ）を形成

Policy（研究改革推進指針）

- 「自由で独創的な研究による知の創生」のための京都大学が重視する5つの学術的価値
- 「社会の多角的な課題解決と社会を変革するイノベーションの創出」のための3つのベクトル
- 戦略を駆動させる2つのシステムの構築

Culture（京大の独自性）

独創を重んじ、自由闊達な対話のなかで、研究者がそれぞれの知的好奇心を基に自由な発想で研究を展開

京都大学に根づく精神

- 真理の探求をめざす基礎研究の重視
- 批判的精神に基づく徹底した対話
- 他者尊重の精神が生む多様性

自由の学風
(京都大学の土壌)

京都という環境

- 歴史と文化が蓄積する国際学術都市
- 政治・経済の中心から離れた学問の都
- 伝統と進取の気風が息づく地

卓越した研究者の輩出

ノーベル賞受賞者アジア最多

京都大学関係者

ノーベル賞	13名
アーベル賞	1名
フィールズ賞	2名
ガウス賞	1名
ラスカー賞	5名
チャーン賞	1名



本庶 佑



山中 伸弥



北川 進



湯川 秀樹

世界のアカデミアを牽引する我が国発の知の創造

京都学派	フィールド研究	物質・材料化学	iPS細胞	がん免疫療法
西田幾多郎ら哲学者たちが形成した哲学の学派。世界で盛んに研究されている。	フィールドワークを根幹にした研究方法。霊長類学などが生まれるきっかけとなる。	理論と実験の両輪でイノベーションを創出。福井謙一（フロンティア軌道理論）、野依良治（不斉合成）、北川進（有機金属構造体）らのノーベル賞受賞に結実。	山中伸弥らが2006年に作製に成功した新しい多能性幹細胞を用いて、新しい再生医療の道を開拓。	本庶佑らが発見したPD-1阻害による革新的ながん治療方法の開拓。

ミッション・ビジョン・ポリシーの全体像



研究

研究活動のグローバル展開

- 海外大学との戦略的パートナーシップ、共同研究指導等を通じた研究ネットワークの拡大（米国・欧州・アジア・オセアニア等）
- ASEAN・インド・アフリカ等へ地球規模課題に取り組む研究者チームを恒常的に派遣

機関連携



- 京都大学と理化学研究所の包括連携2.0（2025年4月始動）
- ・ スーパーコンピュータ「富岳NEXT」
- ・ 放射光施設「SPRING-8-Ⅱ」との連携



KYOTO UNIVERSITY

WPI拠点 / ノーベル賞受賞者を擁する拠点



物質科学 × 細胞生物学



生物学 × 数理科学
生物学 × 人文科学



次世代研究者育成



人文学



再生医学・医療



がん生物学・免疫学



卓越大学院
（先端光・電子デバイス創成学）



京大発スタートアップ
（VC・100%子会社）

国際共同利用・共同研究拠点



化学



数学・数理科学



理論物理学

新たな拠点構想

- 光量子科学拠点
- AI for Science
- 京都大学レクチャーシップアワードの創設による国際ハブ形成
- 京都ムセイオン
- 京都アカデミー

KYOTO



歴史と文化が蓄積する
国際学術都市



自治体連携



京都大学・京都府・京都市の3者による包括連携協定（2025年3月締結）

- 国内外の高度人材の受入、定着及び育成
- 世界に向けたディープテック・スタートアップをはじめとする産業の振興

教育

優秀な留学生・
次世代研究者の獲得

- Kyoto iUPの拡大・発展
- 英語による教育の拡充
- 秋入学制度の拡大

事業成長

グローバルマーケット
を対象とした
国際拠点網・
現地展開の拡大

- 北米・ASEAN（拡大）
- 台湾（新設）
- ロンドン（新設）
- インド（新設）など

受入体制

- 国際連携PI制度の導入
- フレキシブルな人事・給与制度の整備
- 国際対応力を有するスタッフの配置・育成
- 外国人材の受入手続や生活支援を一元的に行うセンターの設置
- 研究インテグリティに係る全学的なマネジメント体制の強化



- 本学独自の研究評価軸 (COMON) の導入
- 3階層の戦略的な研究資源アロケーションの実施
- 研究支援体制の整備・強化による研究時間の確保
- 最先端コアファシリティを含む研究環境の充実

- 次世代の卓越若手研究者の発掘と育成
- トランスレーショナルファンドによる助成
- 基礎研究と社会展開のギャップを埋める「橋渡し法人モデル」の活用

Mission

- 研究の自由と自主
- 研究の多様な発展と統合
- 世界的に卓越した知の創造・継承

研究者が知的探求心に基づいて
自由に独創的な研究ができる大学

部門制
の導入

部門制
の研究力強化を実現

卓越した独創的な学術成果の創出

分野横断
研究

新規
研究拠点

既存
部門の
新陳代謝

重点戦略
支援

新たな知や真理の発見・ブレイクスルーの実現

社会的・経済的価値の創出

橋渡し
法人

知財・共同
研究戦略

スタート
アップ
企業

Strategy

「部門制」システムの構築・駆動

- 学術領域を基盤とした研究組織の確立
- 若手研究者が独立し
自由な発想で研究ができる環境を保障
- チェアー・パーソンによる、
研究力強化のための戦略策定
- 研究活動を支える部門制オフィスの設置

Strategy

「分野横断・新学術創成」システムの構築・駆動

- 新たな学術領域の開拓や地球規模課題への対応
- 既存部門の再編・新陳代謝の促進
- 本学が世界的にリードし、社会的インパクトが高い研究分野などの重点分野支援

- グローバルスタートアップの連続創出モデルの確立
- 成長戦略のための国際拠点網と現地展開の拡大
- 世界トップレベルのインキュベーション施設の設置
- スタートアップを核とした共同研究・知財ライセンスの推進



デパートメント制の導入

学術領域を基盤とするデパートメント制の導入により、オープンな研究環境の中で自由に研究を推進
各デパートメントを統括するチェアー・パーソンがデパートメントの将来構想・研究戦略を策定し、研究力強化を図る

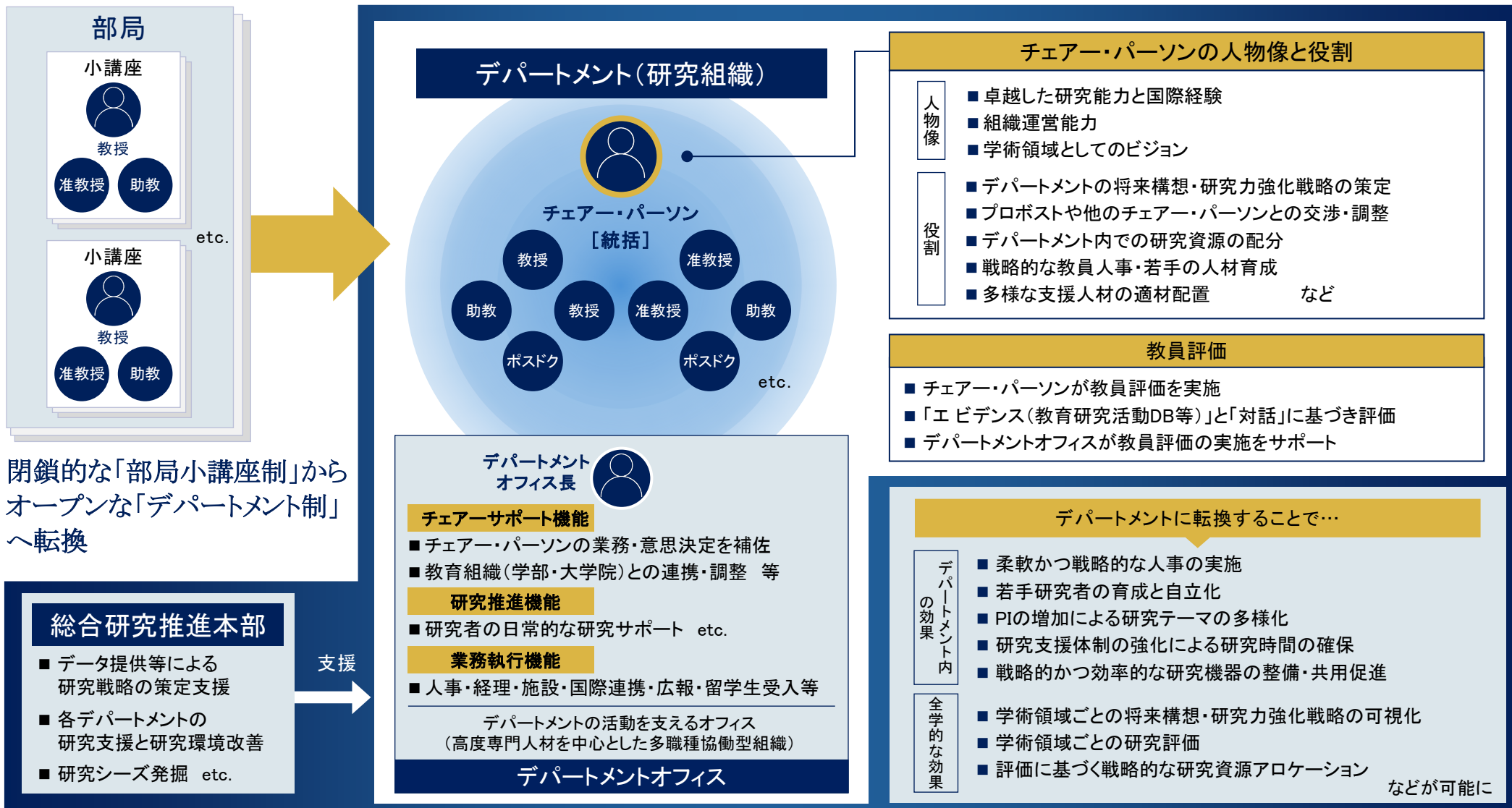
現在 1,000 小講座

認定後
3年以内

デパートメント制への完全移行
約20のデパートメントを新設

～第Ⅰ期末

理想的なデパートメントの形に再編



デパートメント制の導入による教育研究組織の構造改革

従来の部局を中心とした教育・研究実施体制を見直し、学術領域に基づくデパートメントの設置によって、研究・教育改革を加速的に実行する

現状

認定後3年以内

第Ⅰ期末

部局(教育研究組織)

18研究科

文学	教育学	法学	経済学
理学	医学	薬学	工学
農学	人間・環境学	エネルギー科学	アジア・アフリカ
情報学	生命科学	総合生存学	地球環境学
公共政策	経営管理	10学部	

13研究所等(※1)

化学 研究所	人文科学 研究所	医生物学 研究所	エネルギー 理工学 研究所
生存圏 研究所	防災 研究所	基礎物理学 研究所	経済 研究所
数理解析 研究所	複合原子力 科学研究所	東南アジア 地域研究 研究所	iPS細胞 研究所
ヒト行動 進化 研究所	全国共同利用施設 等(センター)		
附属病院			

研究組織(デパートメント)

[約20Dept.] ※2

- 学術領域に基づいた研究組織(基本単位)の確立
- 研究を行うすべての教員、ポスドク等が所属
- 研究活動・研究指導の場
- チェアー・パーソン任命
- Dept.ごとの将来構想・研究力強化戦略の策定
- Dept.オフィスの設置

デパートメントに所属する教員が教育を担当

教育に関する要請

教育組織(大学院)

[18研究科]

- 学生の所属先
- 入学等の審議(学生の定員管理)
- 学位の授与

2027年度より準備ができた領域から順次デパートメント設置を開始

2027年10月目途 約10デパートメントを設置

2027年度末 全てのデパートメント構成を決定

2028年度中 その他のデパートメントを設置

2029年4月 全学でのデパートメント制の完全実施(全てのデパートメントを設置)

研究組織(デパートメント)

[約20Dept.~] ※2

- 研究諮問委員会による定期的な研究評価の実施
- デパートメントの形・構成は学術の進展等に応じて変わり得るものであるため、最適なデパートメントの形にフレキシブルに再編
- 学位プログラムにおける研究指導の実施
- Dept.オフィスの機能強化

教員の配置・教育に関する要請への対応

教育に関する要請

教育組織(大学院)

[研究科を一元化] ※2

- 学生の所属先
- 入学等の審議(学生の定員管理)
- 学位プログラムごとの学位授与

※1 附置研究所等が担う学術研究の深化、社会課題への対応、全国共同利用などのミッションは、引き続き研究所等が果たしていく。

※2 Dept.や研究科の名称・構成等は、今後の学内の議論や研究諮問委員会における検討の状況に応じて適宜見直しが行われる。



研究改革推進指針(Policy)と研究戦略

戦略の実行

全学ビジョンの
実現

Vision

国際卓越研究大学としての京都大学の全学ビジョン

Policy

全学ビジョン実現のための
「研究改革推進指針」

5つの学術的価値

1. 未踏の学術領域開拓から生まれる新しい知の創出
創造的先進性
2. 他分野を触発する学術的波及や社会に変化をもたらす価値創造
波及性
3. 国際・学術ハブの形成による人と知の結節
汲取性
4. 未来の学術を生む研究の萌芽の涵養
伏流性
5. 学術知の積み重ねによる次世代への継承
積層性

3つのベクトル

- I. 京都大学の世界的強みを更に伸ばす
- II. 未踏の学術を切り拓く
- III. 地球規模課題に総合知で挑む

戦略を駆動させる2つのシステムの構築

「デパートメント」システムの構築

- 研究諮問委員会によるデパートメントごとの研究評価
- 研究評価に基づいたデパートメントごとの資源投資
- 各デパートメントの研究力強化を牽引する「チェアー・パーソン」の配置

「分野横断・新学術創成」システムの構築

- デパートメントの枠組みを越えた研究を全学的に支援・促進
- 研究諮問委員会による評価に基づいて、研究拠点等の新たな研究組織の発展を推進

指針に基づいて検討

Strategy

デパートメントごとの
将来構想・研究力強化戦略

- 「5つの学術的価値」と「3つのベクトル」に基づいて、デパートメントごとの将来構想・研究力強化戦略を策定

学術領域ごとの
研究力の可視化大学の方針を
構想・戦略に反映

Strategy

大学の重点研究戦略

- 「3つのベクトル」に基づいて、大学の重点研究戦略を策定

重点分野強化

- 再生・細胞医療
- 光量子科学 など

新学術分野開拓・次世代育成

- 材料科学・細胞生物学
- AI for Science など

グローバル・アジェンダへの挑戦

- 気候変動・巨大災害
- グローバルサウス など

指針に基づいて検討

「デパートメント」システムの駆動

「分野横断・新学術創成」システムの駆動

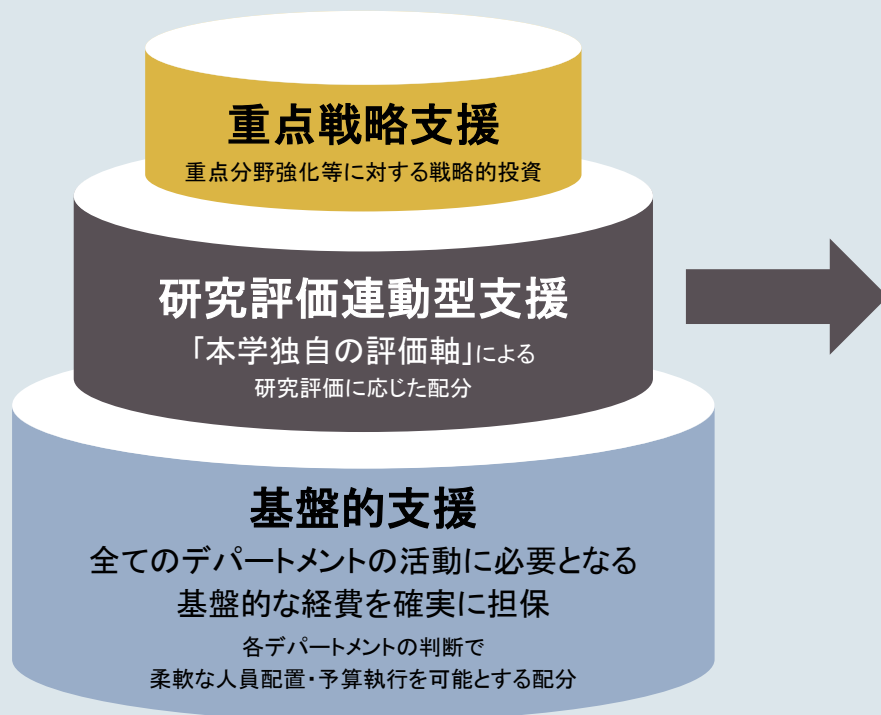
主要な
学術領域
において
世界のトップ
を目指す世界を
先導する
新学術領域
の創生社会の
多面的な
課題解決に
挑戦し
地球社会へ
の貢献を
目指す



3階層の戦略的な研究資源アロケーションと本学独自の評価軸

4つの観点に配慮した3階層の戦略的な研究資源アロケーションの実施により、デパートメントごとの研究力強化を促進
本学が重視する学術的価値に基づき独自の5つの評価軸を導入し、デパートメントの研究評価を実施

3階層の戦略的な研究資源アロケーション



本学独自の5つの評価軸 coMON

- 「研究領域の特性」と「本学のミッション」に配慮した本学独自の評価軸を導入
- 本学が誇る独創的研究の価値を、汎用されている指標のみに依存せず、定性的・ナラティブな要素も含め、包括的に評価
- デパートメントは、自らの展望と戦略に基づき5つの評価軸に即して自らの強みを言語化

創造的先進性 Originality

新たな分野の開拓や、国際的な卓越性が認められる研究を評価する軸

波及性 Outreach Impact

異なる学術分野への展開や社会的・経済的価値の創出などのインパクトをもたらす研究を評価する軸

汲取性 Network Centrality

学術ネットワークの中心を築き、社会の人々と学術を結びつける求心性を持つ研究を評価する軸

伏流性 Maturing Excellence

現状では成果が可視化されていない潜在的でユニークな研究を中長期的な視点で評価する軸

積層性 Cumulative Foundation

学術知の蓄積により、知を確実に継承していく研究を評価する軸

研究資源アロケーション
において配慮すべき

4つの観点

研究人材の確保

- ポスドク拡充
- 若手研究者の国際公募と戦略的リクルート
- 若手研究者の自立支援

1

研究時間の確保

- デパートメントオフィス設置
- 研究支援人材の拡充
- 教育専念教員・マネジメント教員配置
- DXの推進

2

研究環境の整備

- コアファシリティ整備
- 研究データの共有を促進する情報基盤の整備

3

研究の多様性の確保

- ジェンダーダイバーシティ実現
- 海外トップ研究者との交流
- 外国人サポート体制整備

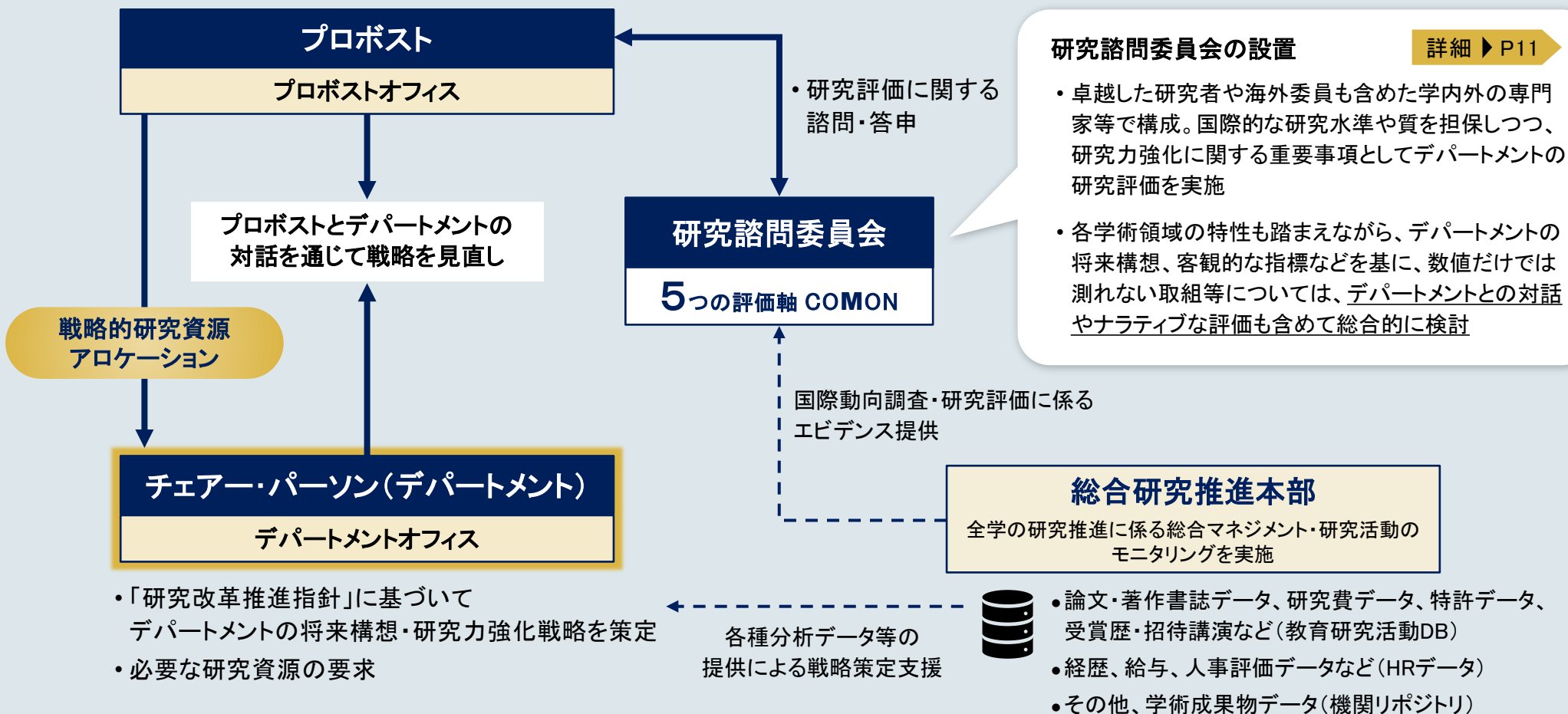
4



戦略的な研究資源アロケーション

- **チェアー・パーソン** が、自らの部門の将来構想・研究力強化戦略を策定し、プロボストに必要な研究資源を要求
- **研究諮問委員会** が、部門の研究評価を行う(国際的な研究水準や質を担保)
- **プロボスト** が、部門との対話と研究諮問委員会の評価結果を基に、
各部門への研究資源配分を決定(決定にあたっては総長、CFOとも協議)

・部門との対話と研究評価結果を踏まえ、研究資源配分を決定





研究諮問委員会の役割と構成

- 研究力強化に関する大学の重要事項を審議し、意思決定を支援する学術的助言機関として設置
- 卓越した研究者や海外委員も含めた外部有識者等が委員会に参画し、中立かつ専門的な視点および国際的な動向を踏まえ、全学的な研究力強化に資する事項の検討・答申・提言を実施
- 答申・提言は原則公開とし、審議プロセスの透明性を担保

研究諮問委員会の役割

デパートメントの研究力強化の推進

- デパートメントの研究評価
- 研究資源アロケーションに関する検討・提言
- デパートメントの新設・再編について検討・提言
- チェアー・パーソンの適格性審査
- 評価システム自体の運用・最適化

大学の重点研究戦略の推進

- 学内外の研究動向を踏まえた重点テーマの整理、応募課題の審査、進捗のモニタリング
 - ・ 重点研究戦略に関する検討・提言
 - ・ 「分野横断・新学術創成」システムの駆動

研究基盤の整備について

- 研究倫理やDEIB等の研究基盤に関する方針策定・モニタリングを実施

研究諮問委員会の構成

総会

- 海外委員、外部有識者を含めた全委員で構成
- 中立かつ専門的な視点から、国際的な動向と基準を踏まえた包括的な審議及び評価を行う

常任委員会

- 委員のうち、卓越した研究者である研究戦略統括などで構成
- 研究諮問委員会の検討事項のうち、特に詳細な検討を必要とするものなどを扱う
- 定期的に開催することで、機動性を担保

運営部会

- 研究諮問委員会での検討に必要な調査分析や作業を担当
- 結果を常任委員会へ報告

領域別分科会

領域ごとに設置

- 領域に精通した領域学術主査や、研究戦略統括(先述)で構成
- 専門的見地から、各デパートメントの研究活動を形式的に評価
- その他、デパートメントの研究力強化に関する事項を扱い、その結果を委員長へ報告

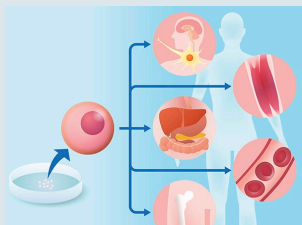
- 研究改革推進指針に沿って重点研究戦略を策定し、大学として戦略的投資を行う
- 京都大学の研究面の強みを踏まえ、デパートメントを越えた研究の強化・発展を推進
- 研究諮問委員会による検討および提言を踏まえ、総長・プロボスト・CFOが分野・テーマを設定し、研究の規模・成熟段階に応じた戦略的な資源投資を実現(学術動向や社会課題の変化に応じて適宜分野・テーマ等の見直しを実施)

重点分野強化

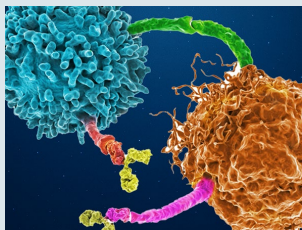
本学が世界的にリードしており、社会的インパクトが高い研究分野の強化

いま本学が世界をリードし、社会的インパクトが高い研究分野の例

再生医療 がん免疫 エネルギー科学
マテリアルサイエンス 数理・情報科学
宇宙物理学 アジア人文学・京都学派 光・量子科学



再生医療



がん免疫

マテリアルサイエンス



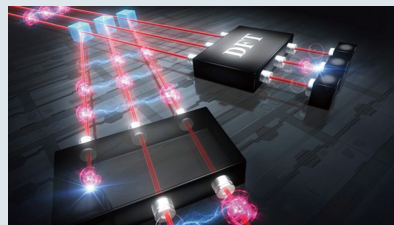
京都学派

新学術分野開拓・次世代育成

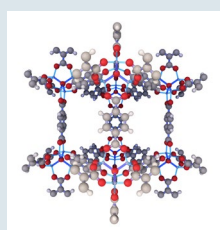
世界的な学術分野へと発展するポテンシャルがあり、次世代の重点分野として期待される新たな分野の開拓・育成

これまでの新開拓分野の例

物質－細胞統合システム
ヒト生物学
AI for Science



光・量子科学



MOF(有機金属構造体) AI for Science



グローバル・アジェンダへの挑戦

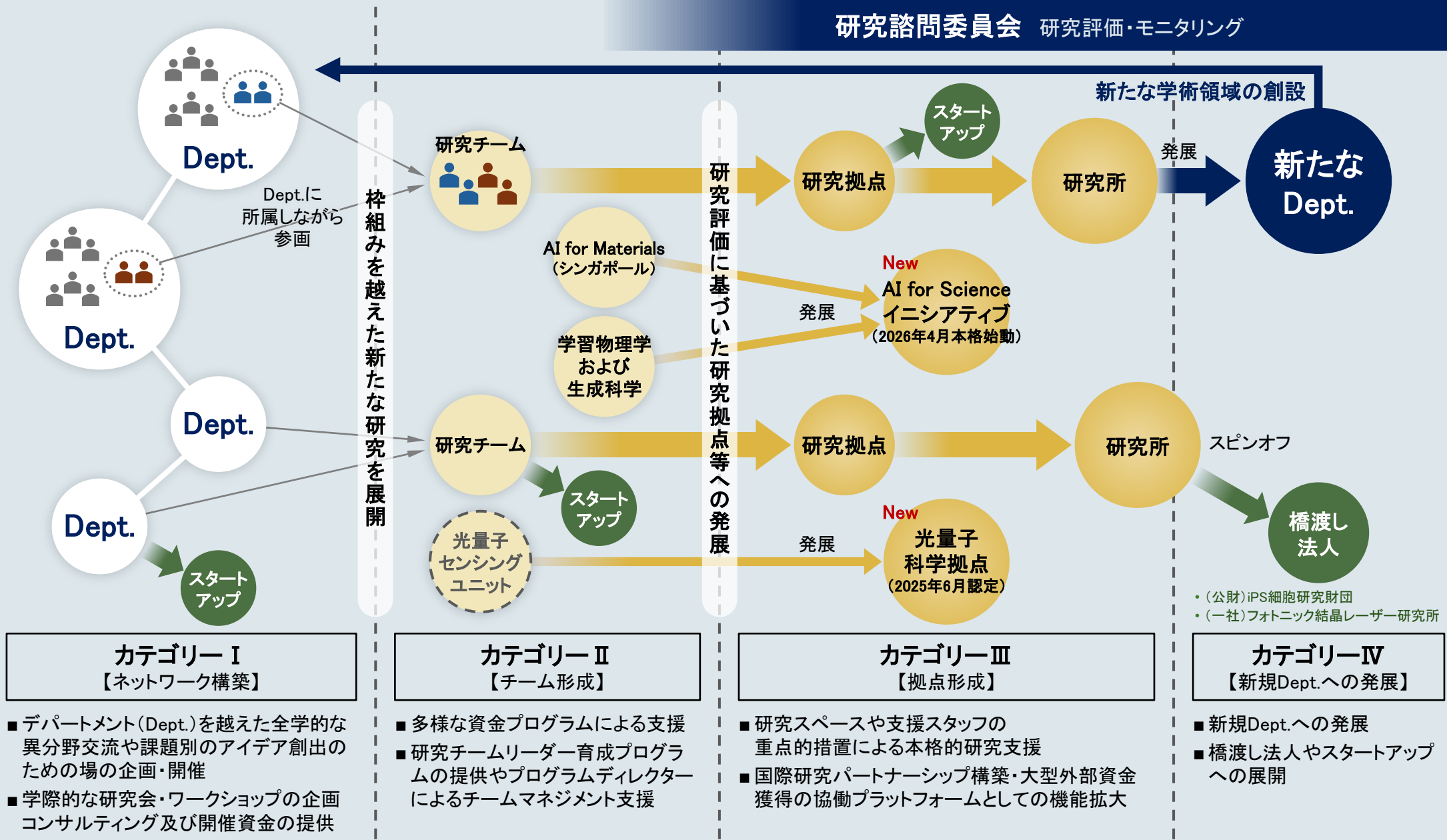
地球規模の社会課題に対し、本学の総合的な研究力を結集することで重要な解決策を提示できると見込まれる分野への挑戦

想定されるアジェンダの例

気候変動・巨大災害 生物多様性
エネルギー・資源問題・新物質開発
デジタル社会における問題 分断と不平等 人口問題



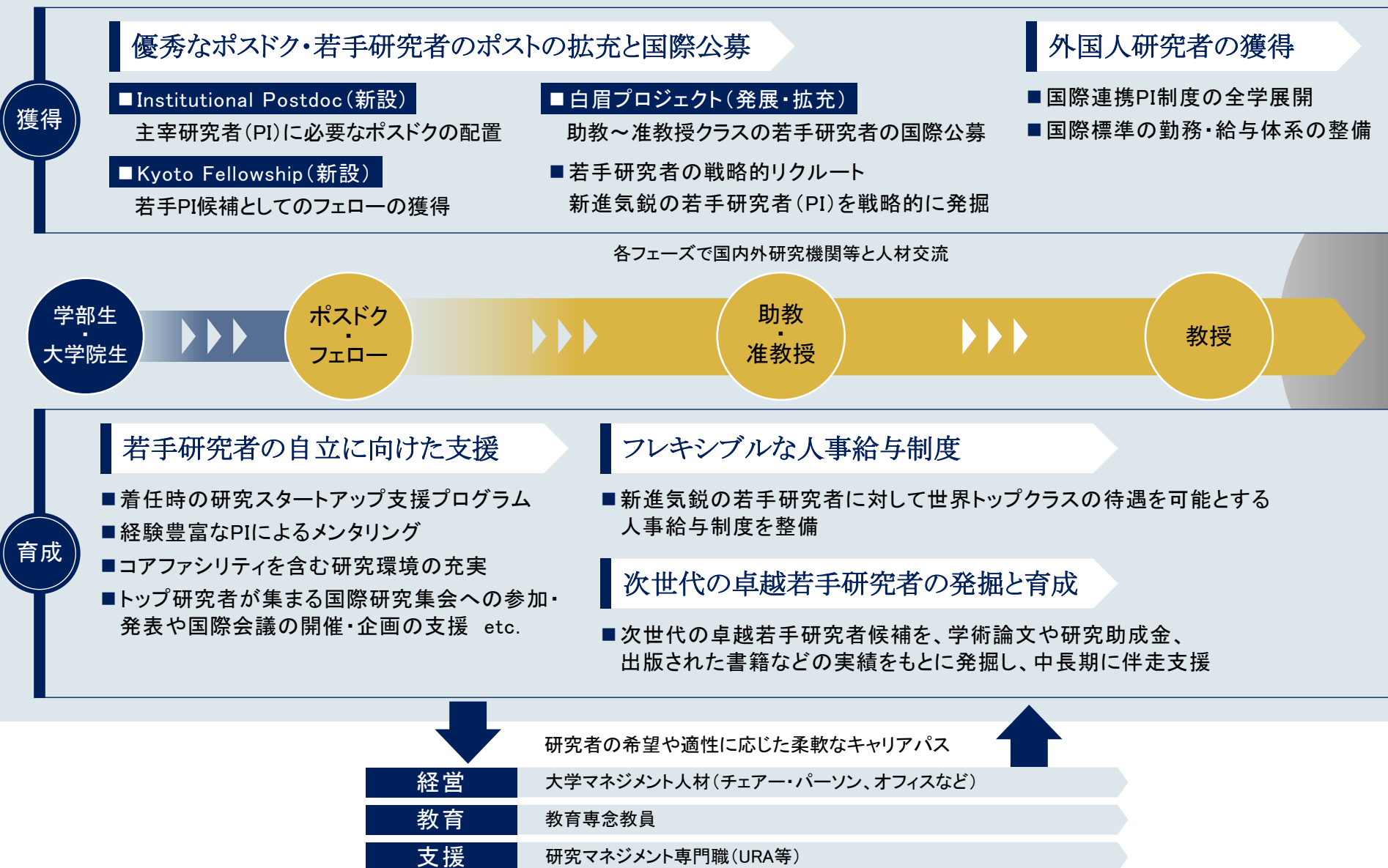
グローバル・アジェンダ





次世代の高度研究人材の獲得・育成

国内外から卓越した「若手研究者」が京都大学に集まる、魅力的な教育研究環境・キャリアパスを整備
若手研究者の「獲得」と「育成」の好循環により、グローバルに活躍する高度人材を生み出し続けられる体制を構築

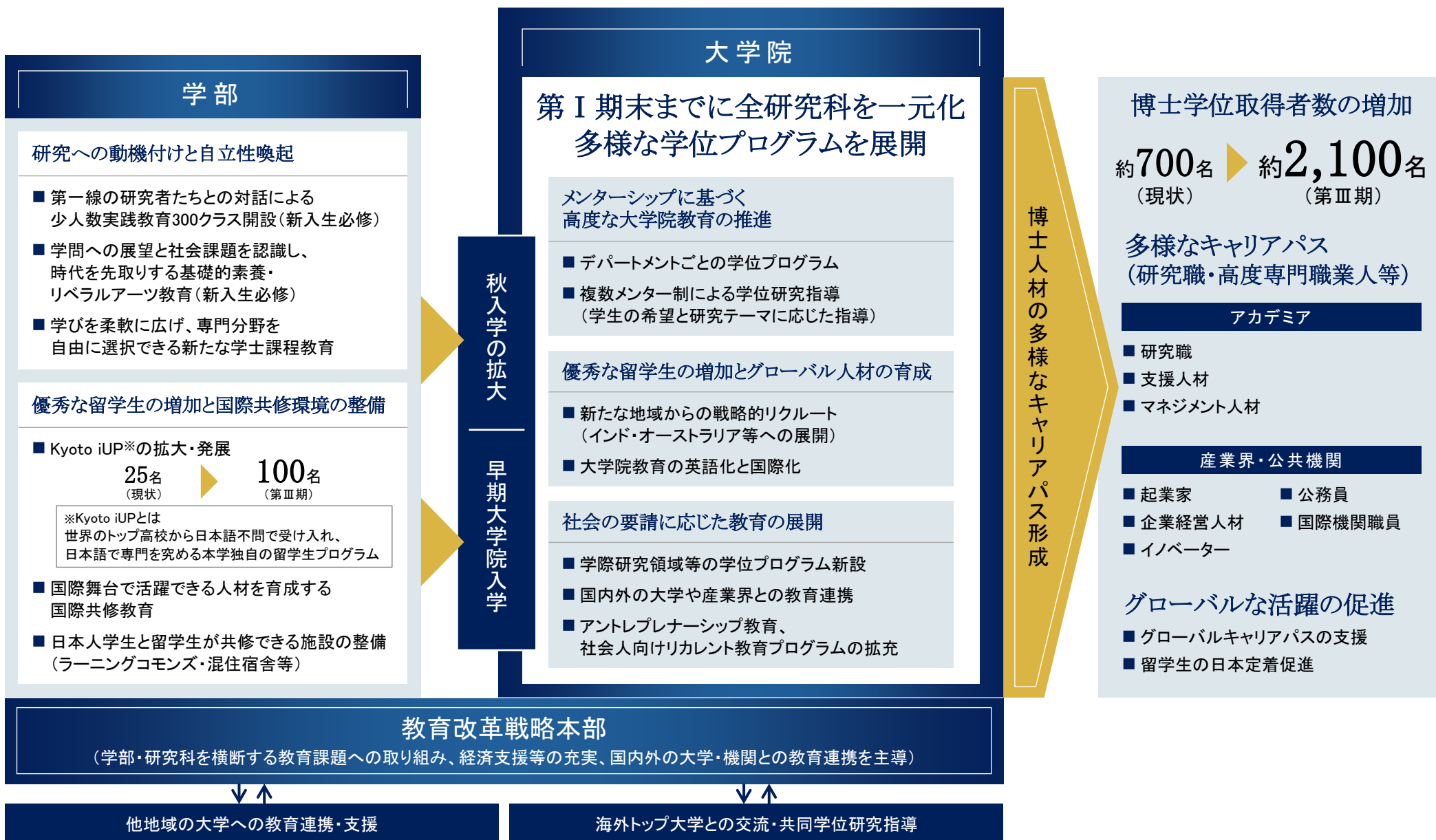


卓越した研究者



大学院重点化によるグローバル人材の育成と輩出

様々な国や地域から優秀な入学者を集め、高度人材として養成し、グローバル社会へ輩出する学部・大学院教育システムを構築
重点的に大学院を強化し、学位人材の広範な活躍の場を拡大することにより、博士学位取得者3倍増を実現



世界諸地域の特性を踏まえたパートナーシップ構築 国際協働の価値を尊重して国際貢献の責務を重視

国際化推進のためのアジャイル・ガバナンス

Global Engagement Office

- 国際化施策の企画・立案
- 海外拠点の運営、On-site Laboratoryの活動支援

学内連携 (課題・目的単位でチーム編成)

広報室

国際広報発信支援

教育改革戦略本部

留学生受入促進・
国際共修環境整備

総合研究推進本部

国際共同研究・海外ファンド獲得支援
研究インテグリティ

成長戦略本部

海外スタートアップ支援
海外同窓会ネットワーク支援

DEIB推進室

外国人人材生活支援

ヨーロッパ、アメリカ

- 戦略的パートナーシップを核とする大学間連携を拡張し、3カ国以上の研究者で構成する共同研究チームを形成
- 互恵的な学生交流プログラム、国際共同研究を推進
- 共同学位プログラムや教育プログラムの相互活用による教育連携強化
- 日欧アフリカ、日欧ASEANなどのトライラテラル協働

京都大学

- 世界中の研究者や学生が集まるハブ形成
- 卓越外国人研究者招へいプログラムの実施
- 京都大学レクチャーシップアワードの新設
- On-site Laboratory (現在16カ所)の増設
- 国際レベルの研究環境確保とPI人事の国際化推進

ASEAN、アフリカ

- 地球規模課題の最前線に共創ユニットを設置し多分野研究チームを恒常的に派遣、研究教育の「現地化」とJoint Partnershipによる国際協働体制強化
- 日ASEAN科学技術イノベーション共同研究拠点を推進
- 国家戦略(ERIA、AZEC、TICAD等)との連携強化

インド太平洋

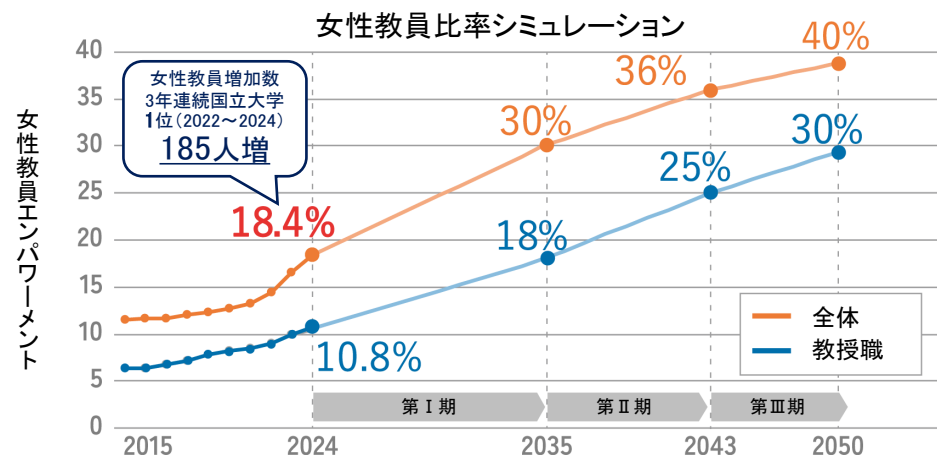
- インド太平洋地域との人的交流事業を積極的に展開
- 人材育成に主眼を置いた日豪印トライラテラル協働や、インドの大学間・産学連携推進によるIUUI (Industry-University-University-Industry) モデル構築
- インドからの研究インターンシッププログラム(KU-STAR)をオセアニアにも拡張し大規模化
- 若手研究者のグローバル化促進プログラム(L-INSIGHT)の共同実施

京都大学DEIB推進宣言(2025年4月)

多様性を力に変え未来を拓く

京都大学の自由の学風の伝統をDEIBの観点から支え、深化させる

ジェンダーダイバーシティの実現



女子学生エンパワーメント

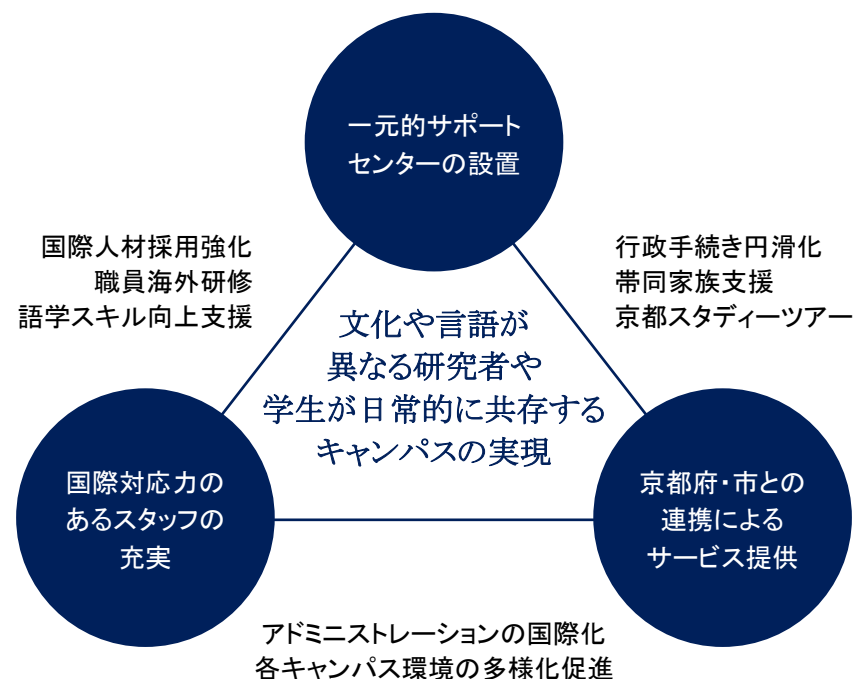
- 女子学生の研究力・マネジメント力育成
- 女子中・高校生への進学促進プログラム
- 地域同窓会と連携した経済的支援の実施

社会への波及

- 先進的な次世代育成支援センターの設置、全国モデル事業としての展開
- 女性大学経営マネジメントリーダー育成研修の全国大学への展開・貢献

切れ目のない充実した
ベーシックサポート
(現在21事業)2023.12
学内学童保育所KuSuKu
開所

外国人研究者・留学生のサポート体制の充実



↑

デパートメント制導入を
核とした研究の多様性の向上

↑

スケールメリットを生かした女性や外国人の増加と
研究者間の幅広い交流による研究の多様化

過去の歴史・思想から学び、現代社会の課題と向き合い、より良い未来を創造する

人文知に関する3つの拠点を中心に、人文社会科学の深化と社会・国際展開を一体的に推進することで、研究と社会変革を結びつける

アジア・アフリカ関連の学術資産 世界有数のアーカイブ

- 歴史と文化の集積地「京都」で
「もの」と「こと」を知的コンテンツ化
- 「もの」: 古文書・近現代資料・考古資料・民族誌/自然誌資料
「こと」: 消えゆく無形文化財(祭礼・芸能等)・消滅危機言語
- デジタル化の推進と価値の再発掘

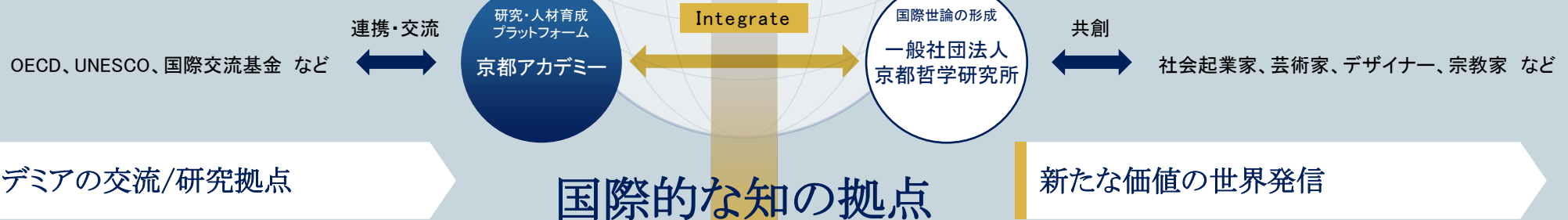


※ムセイオン: 学問の神ムーサイ(ミューズ)の名を冠したヘレニズム時代の図書館×博物館×人文・自然学研究機関。museum の語源。

21世紀発信型複合文化交流施設

- 学術資料の発掘/収集・取捨/選択・アーカイブ化・分析/解釈
「目利き(アカデミックキュレーター等)」の育成
- 市民・次世代研究者・世界の研究者へ学術資産を提供
- シアター・展示/交流スペース等を備えた市民も活用できる複合文化交流施設を設置

想定連携機関: 文化庁、京都府、京都市、京都国立博物館、国際日本文化研究センター、国立民族学博物館、京都文化博物館 など



アカデミアの交流/研究拠点

- ポストSDGsにつながる地球規模のアジェンダ発掘
- 海外トップ研究者・若手研究者との徹底討論
- エビデンススペースの大規模な国際プロジェクトの展開
- 人文社会科学の国際的な共同研究プラットフォーム

新たな価値の世界発信

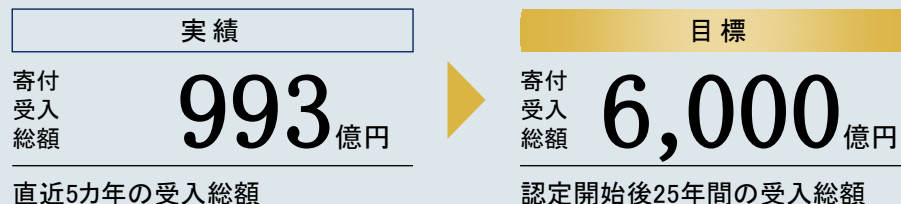
- 京都発の「新たな価値の提案」を通じて
「価値多層社会」を目指す一般社団法人
- 国内外の運動体・組織・会議体をネットワーク化することで国際的運動体を形成
- 京都大学と連携し、新たな価値の提案と異なる価値の相互理解・両立をはかる「京都会議」を開催



外部資金5%成長に向けた戦略

成長戦略本部において、寄付・スタートアップへの投資・知的財産・共同研究等アライアンス事業を総合的にマネジメント
これらの相互作用・相乗効果によって外部資金収入の年5%成長を実現

寄付



- 直近5力年の寄付受入総額は国内大学トップ
- ノーベル賞受賞等の社会的インパクトが寄付額に大きく影響
- 1億円以上の寄付者数は120人(社)を超えており、大口寄付の獲得ポテンシャルを有している

これまでの高い実績をベースとして、新たな取組により寄付受入総額6,000億円をめざす

アジア初の寄付・ファンドレイジング研究教育拠点の設置

海外から優れた研究者を採用・招へいし、寄付に関する知識の集積と学術的基礎の確立、教育プログラムを国内外に提供

学知を理解し、実践に応用できる人材の育成・輩出

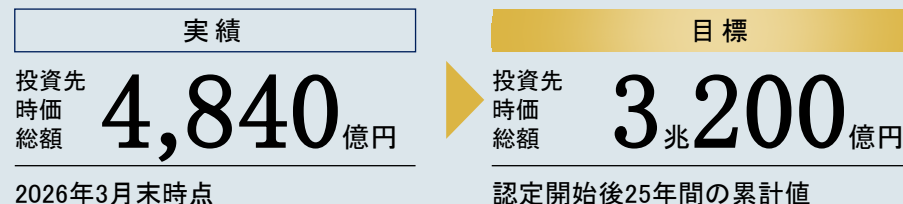
研究教育拠点にて得られた知見に基づく、専門人材の育成システムと効果的なファンドレイジング体制を構築

寄付文化の振興と寄付市場の活性化

欧米とは異なる日本・アジアの文脈に適合した戦略展開により、寄付文化の振興と市場の活性化を通じて社会に貢献

新たな取組

研究成果活用型スタートアップ投資



- 京都iCAPの投資先は、時価総額4,800億円超まで成長
- 投資先の9社が時価総額100億円を超え、9社の時価総額合計は3,300億円超
- 高度人材を中心とした2,328人の雇用を創出(投資先の役職員数)

これまでの高い実績をベースとして、新たな取組により投資先時価総額3兆200億円をめざす

プロ経営人材の連続輩出によるEIRコミュニティの形成

博士号保持者等を本学で雇用しながら学内研究シーズを基に自ら起業する「EIR(Entrepreneurs in residence: 客員起業家)」を総計50-100名規模で輩出

成長戦略のための海外拠点網と現地展開の拡大

米国とアジアを中心に、シリコンバレー、台北、ロンドン、ハイデラバード等に新たな海外拠点網を構築し、現地支援体制を拡大

世界トップレベルのインキュベーション事業の推進

世界最高峰のインキュベーターと合併事業を推進し、世界品質のシェアラボの提供や事業開発サポート等を通じて京都を中心に起業環境を整備

新たな取組



エビデンスベースの財務経営戦略

財務データ等をもとに中長期財政計画を策定し、計画を踏まえた戦略的資源配分に沿って、毎年の予算計画を実行
CFOのエビデンスに基づく財務分析により、「稼ぐ」「使う」「貯める」を一体的に推進し、中長期的な視点に立った財務経営戦略を展開

中長期財政計画

稼ぐ

収入計画

- 基盤的收入
- 外部資金、助成金収入

外部資金成長

現在の約3.5倍増の
外部資金収入を達成



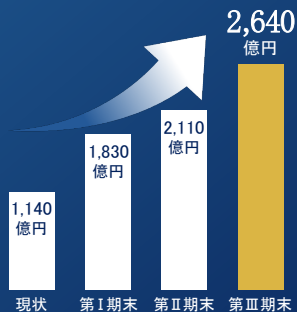
使う

支出計画

- 人、スペース、事業、インフラへの投資

事業成長

現在の約2.3倍増の
事業規模成長を達成



貯める

基金繰入計画

- 基金繰入
- 資金運用

独自基金造成

期間終了時点で
1.2兆円規模の基金を造成



CFOはエビデンスに基づき、計画と実績の乖離を分析し、目標達成に向けた財政計画の修正と対策を実行

DXによるエビデンスシステム

- 人員、スペース・設備、事業等の経営資源情報を集約
- デパートメントに対しても情報を開示し、可視化・共有



経営資源情報



人材／人件費情報



スペース・設備情報



外部資金獲得情報



基金繰入状況

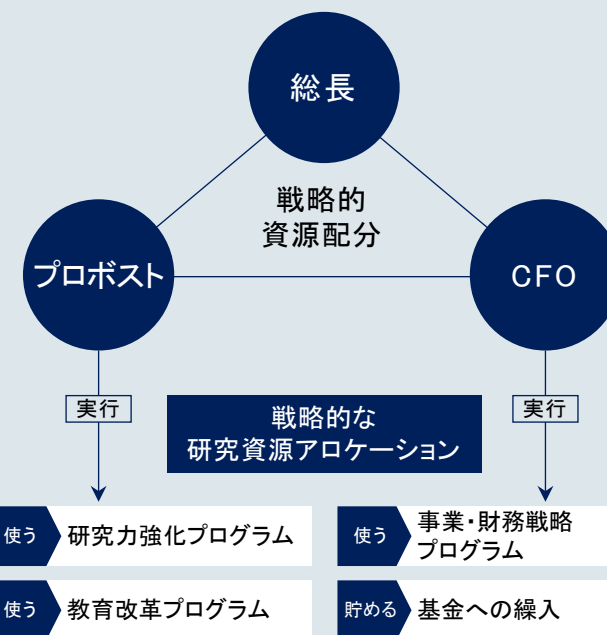


決算情報(経費執行状況)

毎年の収入／支出予算

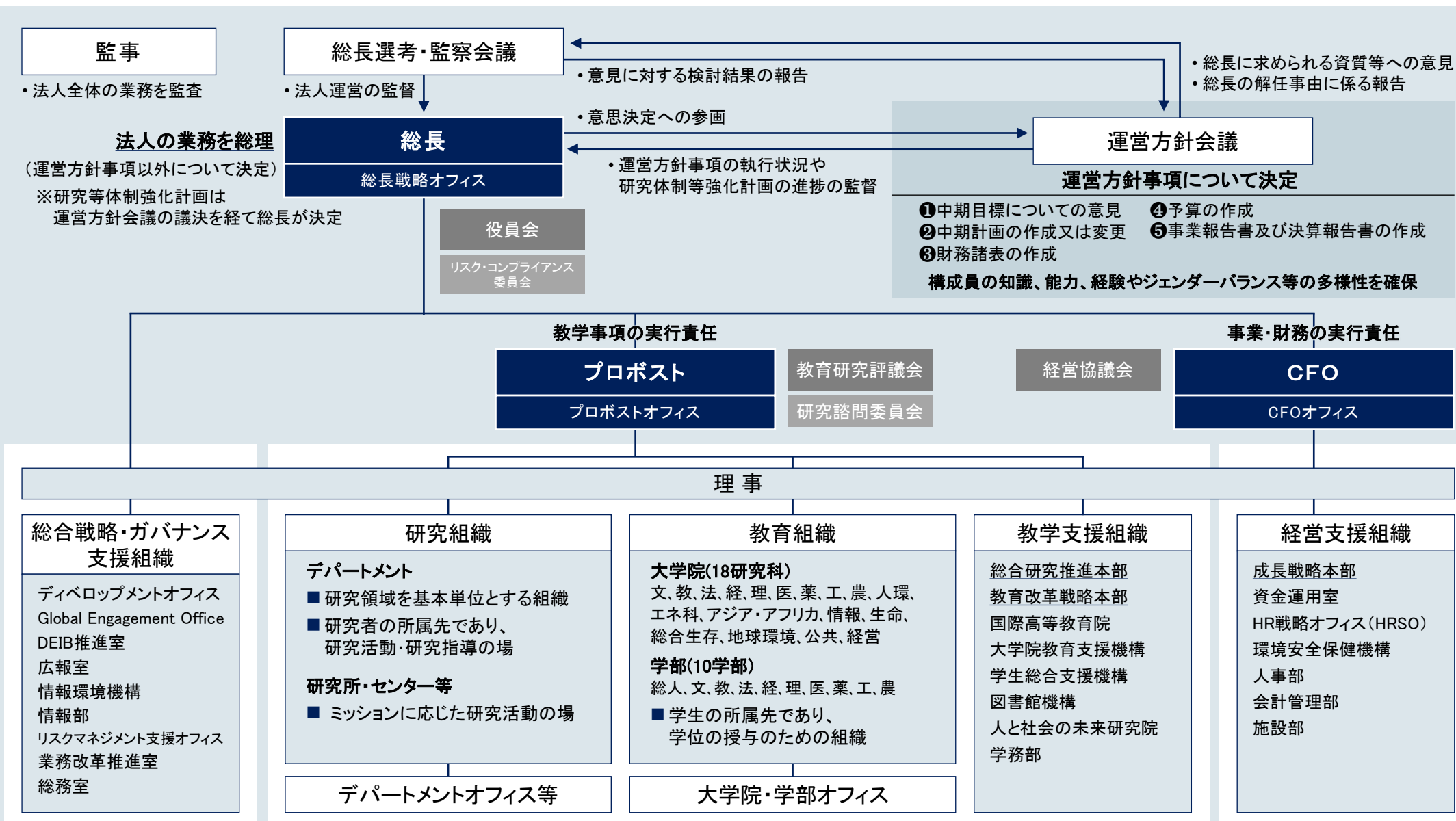
稼ぐ

当該年度の収入情報



多様なステークホルダーの声を大学経営に反映させる運営方針会議の設置

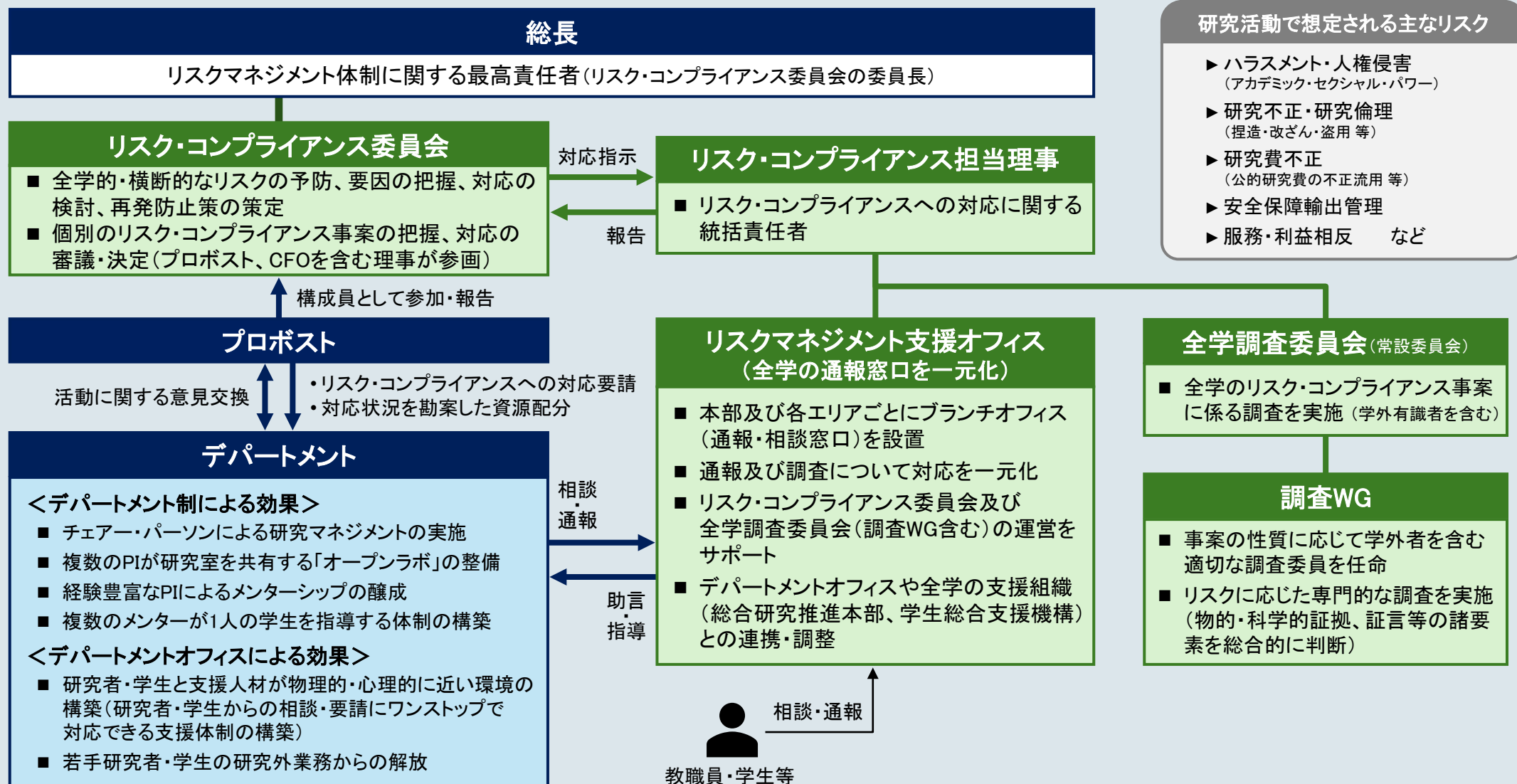
総長、プロボスト(教学担当役員)及びCFO(事業・財務担当役員)を中心とした戦略的意思決定によるガバナンス体制の構築



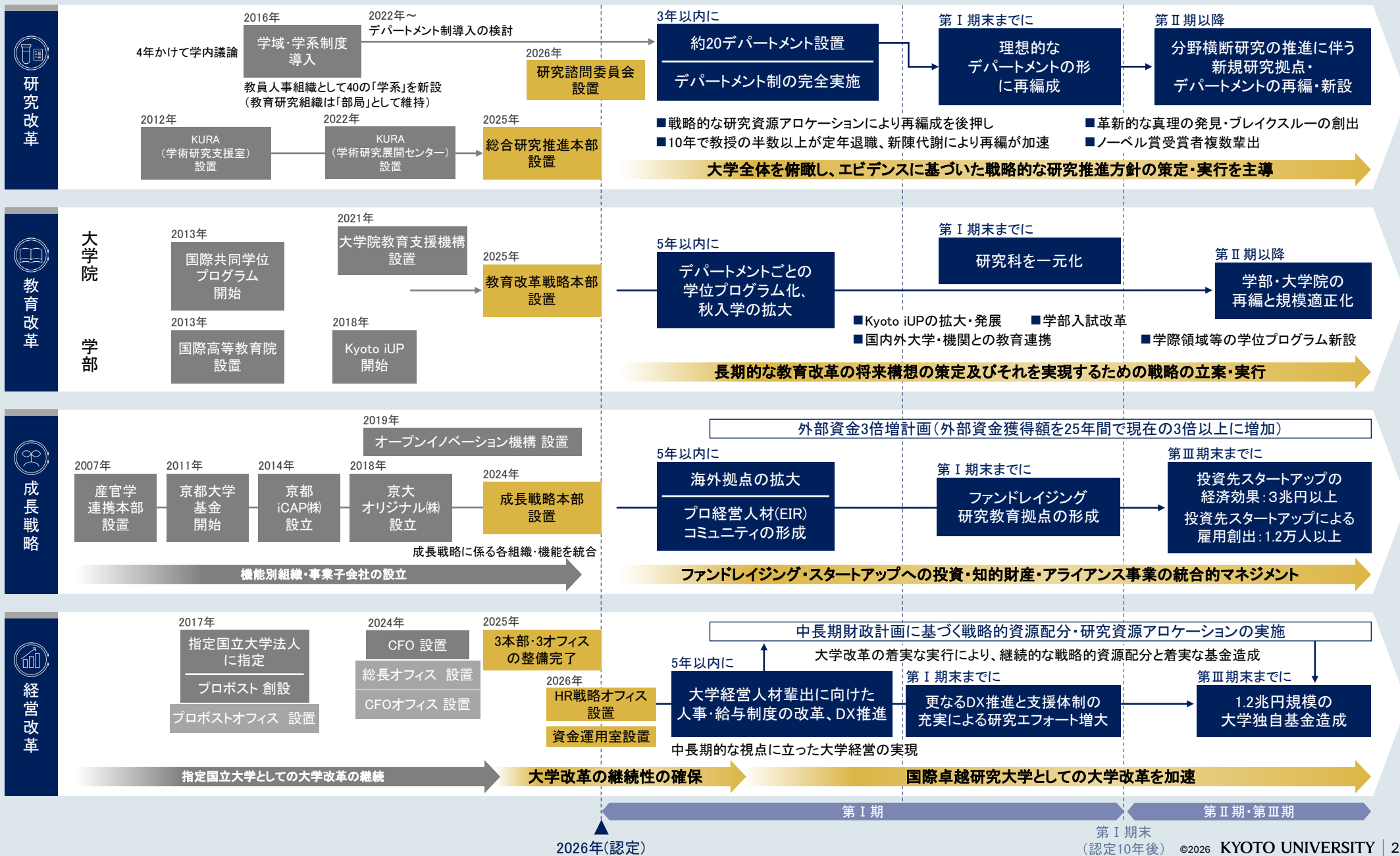
※本体制図は認定後3年以内を想定したものであり、これ以降も研究組織・教育組織の柔軟な再編成を進める

全学的なリスクマネジメント体制の構築

- 総長のもとに「リスク・コンプライアンス委員会」を設置し、全学的・横断的なリスク要因の把握や個別事案における対応の審議・決定を実施
- リスクマネジメント支援オフィスや全学調査委員会を設置し、リスク・コンプライアンス事案に係る対応や調査を大学本部で一元的に実施
- デパートメント制の導入により、リスク・コンプライアンス事案が発生しないオープンな研究環境・教育環境を構築



10年以上にわたる大学改革の実績 ▶▶▶ 国際卓越研究大学としての改革を加速



研究力強化プログラム(デパートメント制の導入により指標の向上が加速)		現状 (最新値)	第Ⅰ期末 (10年目)	第Ⅱ期末 (18年目)	第Ⅲ期末 (25年目)
研究力	Top10%論文割合	10.7%	15%	18%	20%
	スモールアイランド型研究領域割合	28%	33%	37%	40%
研究人材	Institutionalポスドクの雇用人数	—	120人	160人	200人
	若手PI研究者数	244人	350人	450人	550人
	若手研究者の責任著者論文数	405本	500本	680本	840本
研究時間	教員一人当たり支援スタッフ数	0.7人	0.9人	1.1人	1.3人
	研究時間(研究エフォート)	35.8%	45%	50%	55%
研究環境	共用設備の延べ利用者数	約50,000人	59,000人	68,000人	79,000人
	京都大学産出論文のうち論文に紐づく研究データセット※ ¹ 公開比率	2.3%	17%	20%	24%
国際・多様性	外国人研究者比率	12%	15%	20%	25%
	グローバルサウスの有力ハブ大学等に設置する共創ユニット※ ² 数	—	6件	10件	10件
	職員に占めるバイリンガル職員比率(日本語以外の言語を用いて業務に従事できる職員)	14%	25%	40%	50%
	女性教員比率	18%	30%	36%	40%

教育改革プログラム		現状 (最新値)	第Ⅰ期末 (10年目)	第Ⅱ期末 (18年目)	第Ⅲ期末 (25年目)
博士学位取得者数		690人	1,100人	1,750人	2,100人
博士学位取得者の進路決定率		80%	95%	100%	100%

事業・財務戦略プログラム		現状 (最新値)	第Ⅰ期末 (10年目)	第Ⅱ期末 (18年目)	第Ⅲ期末 (25年目)
投資先スタートアップの経済効果(投資先の時価総額 ※持分以外も含む)		4,840億円	事業開始後累計 1兆2,700億円	事業開始後累計 2兆2,900億円	事業開始後累計 3兆200億円
投資先スタートアップによる雇用創出数(投資先の役職員総数)		2,328人	事業開始後累計 5,800人	事業開始後累計 9,720人	事業開始後累計 12,600人
寄付金収入額		直近5カ年受入累計 993億円	事業開始後累計 1,700億円	事業開始後累計 3,500億円	事業開始後累計 6,000億円
自己収入比率		49.8%	54.0%	59.0%	67.0%

※¹ 科学研究の情報源として利用されるデータ。研究素材として収集または生成した一次データだけでなく、それらを分析・処理して作成された加工データや解析データ等も含む。
(例: 測定データ、ソースコード、写真、音声、映像、実験ノート、質問票、臨床データ等)

※² 地球規模課題に関する研究・教育の現地化を推進するため国や地域のハブとなっている大学や研究機関に設置する教育研究拠点。
ここを中心に共同研究の推進や研究インターンシッププログラムの開発運営などを行う。